



「たんぼにまつわる話」 33.

—たんぼの昼の顔と夜の顔—

岡山市 十川 巡一

山の中にある棚田は良い遊び場所ではありましたが、夜になるととても危険な場所になります。それはマムシという蛇です（昔はハミと呼んでいた）。昼間はあまり見かけませんが、夜ともなるとこんなにいるのかとビックリします。たんぼの周りの溝やあぜ道の側で、ジーと獲物を狙って待ちかまえています。うっかり通ると、たちまち足にかみついてこようとします。

夜になると、わざわざ捕まえに行く人もいました。捕まえたマムシを焼酎につけ、3年以上経ったマムシ酒は、強壮剤や疲労回復の特効薬になります。

捕まえていた人の話によると「マムシは夜行性のため夜行くと見ることが出来ます。稲の根元を懐中電灯で照らすと目が赤く光ります。また、溝の中を照らすと体をくねらせて這っているときもあった」そうです。

たんぼは夜の顔と昼の顔を持っており、楽しいだけでなく、とても危険な一面もあるのです。しかし、マムシが棲息しているということは、とても自然に恵まれて水もきれいだという事なのです（まむし谷とかマムシの巣などと呼ばれた場所があった）。

子供のころは、よくポケットにヤマカガシの子を入れて遊んでいましたがとても危険なことだったのです（大人になってから新聞を読んでいるとヤマカガシに噛まれて人が死んだこと、ヤマカガシは毒蛇だったことを偶然に読んだ事がありました。ヤマカガシは上顎の一番奥に毒を出す牙があるため、長いこと分からなかったのです）。

ヤマカガシもたんぼのあぜ道や池の縁で、カエルを狙っているのを何度もみました。ジーとカエルを見ているのが、カエルは身動きしません。ヤマカガシは動いた瞬間には口にくわえていました。

中学生の時、休みの日に一人で時々マムシを探しに行きました。もちろん昼間です。夜はとても恐ろしくて、でかけることは出来ません。そこら中マムシのすみかだらけですから、おまけに街灯もなく、真っ暗闇でお化けでも出そうな感じなので子供の私には、とても大久保の夜は怖かったです。でも夜空はたくさんの星でとてもきれいでした。

たんぼの周りの日陰で水まわりの良い涼しいところにマムシはいました。たいてい2匹は見つけることが出来ました。なかなか捕まえることが出来ませんでした。たんぼの側まで追いつめてとうとう捕まえました。すばやく足で頭を踏みつけ、気をつけて頭の後を指で挟みます。そして袋の中に「ポイツ」

さてっと、ということでもた河原へ行き、さっそく皮をきれいにはがし、水できれいに洗いました。身の方は竹の串をこしらえてくるくと巻いて刺して家に帰り、串の方は玄関わきの柱の横に刺し、皮はきれいに板にはり何日も乾かしました。

じつは、皮の模様がとても気に入り、麦わら帽子の飾りにしたかったのです。そしてお気に入りの麦わら帽子の出来上がりです。

身の方は乾いてから焼いて食べようと思っていたのですが、気がつくとありませんでした（おじいさんが食べたのかなあ？）。

今までに見た蛇は岡山市牟佐大久保でマムシ（アカマムシ、アオマムシ）アオダイショウ（ネズミトリ）、シマヘビ（クチナワ）、ヤマカガシ、カラスヘビ（シマヘビとヤマカガシの黒化型）、ヒバカリ、ジムグリ、シロジムグリ（ジムグリのアルビノ）でしたが、最近、自宅のある岡山市原でシロマダラを見つけ、一種類追加しました。



4年目のマムシの焼酎漬



お気に入りの麦わら帽子。今は無いので思い出して描きました。